

ゼノ、シヌヒマ、ナイ!!



見すごさないで——あなたの“やさしさ”

ゼノ

— かぎりなき愛に —



声の出演

平田康之/池田 勝/江成正元/梶芽衣子

企画・製作: 枝見静樹 ● 製作指揮・脚本: 千葉茂樹 ● 監督・脚本: 宇井孝司 ● プロデューサー: 枝見太郎/平形則安/加太孝明

キャラクター設定・総作画監督: 穴倉 敏 ● 作画監督: 中島豊秋 ● 音楽: 渡辺俊幸 ● 指揮: 秋山和慶 ● 演奏: 東京交響楽団 ● 美術監督: 岡田和夫 ● 撮影監督: 白井久男

音響監督: 斯波重治 ● アニメーションプロデューサー: 望月敬一郎 ● アニメーション制作: メディアビジョン ● 制作: ROBOT/近代映画協会

製作協力: (財)富士福祉事業団 ● 製作・配給: 「ゼノさんの映画をつくる会」 ● 配給協力: エム・プロジェクト

“かぎりない愛の生涯”を伝えたい。 史実にもとづき、ついにアニメーション映画に!!



“ゼノさん”を知っていますか？

ゼノ・ゼブロフスキー、愛称“ゼノさん”の半生を描いた異色のアニメーション。彼はポーランドに生まれ、1930年にコルベ神父とともに来日。戦時中も日本にとどまり、1945年8月長崎で被爆。戦後は、戦災孤児の救済を中心に生活困窮者の支援、災害被災者の救援、など全国各地を駆けめぐり、日本のボランティア運動の草分けとも言われています。

ゼノさんの救済活動によって実際に救われた人の数だけでも幾万とも言われています。とにかく、目の前の困った人を、放っておく事が出来なかったゼノさんの生涯は、まさしく“かぎりなき愛の生涯”であったと言えるでしょう。

ゼノは歩いた——“こころの灯”をともすため……。

ゼノ修道士は長崎の修道院で祈りの日々を送っていた。そんなある日、突然の閃光と爆風が修道院を襲った。1945年8月9日、長崎に原爆が投下された日。町は焼けただけ、救いを求める人々であふれかえった。

それから数日後、戦争は終わった。しかし、生き残った人々にとって住む家もなく、食べ物も手に入らない新たな苦難の日常の始まりでもあった。ゼノさんは毎日のように食べ物や衣類を持って市内に飛び出し、子どもたちに配り歩いた。しまいに修道院は戦災孤児となった子どもたちでいっぱいになった。ゼノさんの活動は長崎だけでなく日本中に広がっていった。

それから数十年、ゼノさんの存在もいつしか人々の記憶から遠ざかろうとしている'80年代。病院の一室にすっかり年取ったゼノさんの姿があった。“ゼノ、死ヌヒマナイ”と日本中を駆け回ったゼノさんだったが……



市民の募金で映画化！

ゼノさんの姿を現代に伝えたい、未来に向けて残したい、の呼びかけに応えた2000余名の呼びかけによる1億円を超える募金を支えに、「ゼノ—かぎりなき愛に—」はうまれました。ゼノさんとの直接の交流のあった人、名前と業績だけしか知らなかった人、信仰の有無を越え、宗派の違いを越え全国各地から、この募金は寄せられ、映画化は実現しました。

実力派スタッフ、熱い想いをこめ！

手塚治虫原作のTVシリーズ「ジャングル大帝」、ディズニープロのTVシリーズ「リトル・マーメイド」など着実な実績を重ねている宇井孝司が監督。世界的にも注目を受ける日本のアニメ界のトッププロたちが参加しています。音楽には「モスラ」(東宝)、「毛利元就」(NHK)などを手掛けた渡辺俊幸があたり、秋山和慶指揮により東京交響楽団が演奏。



人は人に対して、何ができるのか——。

5月《かぎりない愛》のロードショー

全国共通特別鑑賞券絶賛発売中!

一般・大・高生¥1300
中学生・シルバー¥1000/小学生以下¥800

〈前売り券お取り扱い〉
チケット・ぴあ、チケット・セゾン、他
都内各プレイガイドにて

●当日料金(税込):一般¥1,700/大・高生¥1,400
シルバー(60歳以上)・中・小学生以下¥1,000

銀座・ブランタン隣・丸の内東映B1F
丸の内シャンゼリゼ
03(3535)4740

●お問い合わせ/お申し込み
“ゼノさんの映画をつくる会” 042-327-9731 富士福祉事業団
“ゼノさん上映事務局” 03-3470-3533 エム・プロジェクト内
*公開時期については、変更となる場合もございます。

5/29(±)	千葉市民会館 043-242-0082 千葉県映画センター
6/13(日)	浦和市文化センター 03-3470-3533 エム・プロジェクト
6/26(±)	横浜市教育文化ホール 044-733-5772 マザー・ポケット